

縣報

第廿六號

明治卅三年十二月廿四日 和歌山縣

○和歌山縣令第八十五號

明治三十一年十月當縣令第六十四號縣有財產管理規則通常縣會ノ議決ヲ經テ左ノ通改正ス
明治三十三年十二月十五日 和歌山縣知事 椿 泰一 耶

縣有財產管理規定

第一條 縣有財產ハ知事之ヲ總轄シ種類ニ隨ヒ各廳衙ニ於テ管理セシム但法律勅令若クハ省令ニ特別ノ規定アルモノハ此限ニアラス

第二條 不動產ニシテ縣ノ公用ニ供セザルモノハ縣廳ニ於テ之ヲ管理ス

前項縣公用ニ供セザル不動產ハ年期ヲ定メ使用料ヲ徵シ之ヲ貸與スルコトヲ得但公共ノ事業ニ供スルモノ又ハ特別ノ理由アルモノニ貸與スル場合若クハ一時限貸與スルノ場合ハ使用料ヲ徵セザルコトヲ得

物品ノ不用ニ屬シタルモノアルトギハ之ヲ賣却スルコトヲ得

有價証券ハ必要ニ應ジ之ヲ賣却スルコトヲ得

第三條 縣有財產ヲ管理シ若クハ其ノ取扱ヲ爲ス官吏ハ之ヲ買受ケ又ハ自己ノ所有物ト交換スルコトヲ得ス

第四條 縣有不動產ノ貸與有價証券ノ賣却及縣金庫ノ契約事項其他財產管理上重要ノ事

項ハ縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ムルモノトス

但縣有不動産ノ一時限ノ貸與ハ此限ニアラス

○和歌山縣令第八十六號

小學校令施行細則左ノ通相定ム

明治三十三年十二月十九日

小學校令施行細則

和歌山縣知事

梅 養 一 郎

第一章 教科及編制

第一節 學期、休業日、教授時刻及式日

第二節 證書

第三節 學級編制

第四節 補習科

第二章 設備

第三章 就學

第四章 教員檢定及免許

第五章 職

第一節 學校長及教員ノ進退

第二節 學校長及教員ノ職務及服務

第三節 俸給旅費及諸給與

第四節 代用教員

第六章 授業科

第七章 幼稚園盲啞學校及小學校ニ類スル各種學校

第八章 附則

小學校令施行細則

第一章 教科及編制

第一節 學期、休業日、教授時刻及式日

第一條 小學校ノ學期ヲ分チテ左ノ三學期トス

第一學期 自四月一日起至八月三十一日

第二學期 自九月一日起至十二月三十一日

第三學期 自一月一日起至三月三十一日

第二條 小學校毎日ノ教授終始ノ時刻左ノ如シ

始業 終業

自四月一日 午前九時 午後三時

自五月一日 午前八時 午後二時

自六月三十日 午前七時 正午十二時

自七月一日 午前八時 午後二時

自八月一日 午前八時 午後二時

自九月一日 午前八時 午後二時

自十一月一日 午前九時
至三月三十一日 午後三時

第三條 日曜日大祭日祝日ノ外小學校ノ休業日及休業日數左ノ如シ

一學校所在地産土神祭日

一學校設立紀念日

一招魂祭日

一學年末一週間以內

一夏季休業日

七月一日ヨリ八月三十一日迄ノ内三週間

一冬季休業日

十二月二十五日ヨリ翌年一月六日迄

學校長ハ土地ノ情況ニヨリ夏季休業日ハ市ニアリテハ知事町村ニアリテハ郡長ノ認可ヲ經他ノ月日ニ更換シ若クハ其ノ日數ヲ伸縮スルコトヲ得

第四條 學校長ハ夏季及冬季休業日ノ前後ニ於テ教授時間ヲ減スルトキハ其ノ日數、教授終始ノ時刻及各教科日ノ教授時數ヲ具シ市ニアリテハ知事町村ニアリテハ郡長ニ開

申スヘシ

第五條 學校長ハ必要ノ場合ニ於テ臨時休業ヲナサント欲スルトキハ市ニアリテハ知事

町村ニアリテハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ

第六條 式日ハ謹嚴莊重以テ祝意ヲ表スルヲ旨トスヘシ

第七條 紀元節天長節及一月一日ニ於テハ學校職員及兒童學校ニ參集シ左ノ次第ニ依リ

祝賀式ヲ行フヘシ

一 學校職員及兒童入場

二 市町村吏員學務委員等入場

三 御影攝帳一同最敬禮

四 職員及兒童「君ヲ代」合唱

五 一同

天皇陛下 御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

皇后陛下ノ御影ニ對シ奉リ最敬禮ヲ行フ

六 學校長勸語奉讀

七 學校長告諭

八 職員及兒童當日ノ唱歌合唱

九 一同最敬禮垂帳

第十條 御影又ハ複製ノ 御影ヲ奉讀セサル學校ニ於テハ第七條第三號第五號及第九號

ノ式ヲ欠キ又唱歌ヲ課セサル學校ニ於テハ同條第四號及第八號ノ式ヲ欠クコトヲ得

第九條 祝賀式日ニハ兒童ノ保護者其ノ他市町村住民ヲシテ可成儀式ニ參列セシムヘシ

此ノ場合ニ於テハ第七條第二號ノ次ニ入場セシムルモノトス

第十條 參列者ハ相當ノ禮服ヲ着スヘキハ勿論禮式ニ關シテハ第七條第一號及第二號ノ參列員ト同例タルヘシ

第二節 證書

第十一條 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ兒童學業ノ成績ヲ考查シ尋常小學校若クハ高等

小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタルモノニハ第一號式ノ證書ヲ授與スヘシ

第十二條 學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ第二號式

ノ證書ヲ授與スルコトヲ得

第十三條 學校長ハ小學校令施行規則第二十一條ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニ學

習證書ヲ與ヘントスルトキハ第三號式ニ據ルヘシ

第一號書式

番號

卒業證書

姓名

生年月

校印

尋常小學校 (高等小學校) 修業年限 何ヶ年 ノ教科ヲ卒業セシコ

トヲ證ス

年月日

縣郡(市)町(私)立(尋常)(高等)(尋常)小學校長姓名(高等)

第三號書式

修業證書

校印

姓

名
生年月

尋常小學校(高等小學校)第何學年ノ課程ヲ修了セシコト
ヲ證ス

年月日

縣(市)町(私)立何尋常(高等)(尋常)小學校長姓名印

第三號書式

學習證書

校印

姓

名
生年月

尋常(高等)小學校第何學年ノ課程ヲ修了セシコトヲ
證ス

年月日

縣郡(市)町(私)立何尋常(高等)(尋常)(高等)小學校長姓名附

第三節 學級編制

第十四條 明治三十三年文部省令第十四號小學校令施行規則第二十九條第二項ニ依リ分

敷場ヲ設クントスルトキハ其ノ事由及左ノ各號ヲ具シ市ニアリテハ直ニ町村ニアリテ

ハ郡長ヲ經由シテ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一 學齡兒童數 男何人 女何人 計何人 (高等小學校ニアリハテ之ヲ省ク)

二 學兒童數 男何人 女何人 計何人 (前ニ同シ)

三 本校學級數

第一學級 何學年 男何人 女何人 計何人

何學年 男何人 女何人

第二學級 何學年 男何人 女何人 計何人

何學年 男何人 女何人

(以下倣之)

四分級場學級數

第一學級 何學年 男何人 女何人 計何人

何學年 男何人 女何人

第二學級 何學年 男何人 女何人 計何人

何學年 男何人 女何人

第十五條 尋常小學校若クハ其ノ分教場ニ於テハ同一學年ノ女兒ノ數五十人以上高等小
學校若クハ其ノ分教場ニ於テハ全校女兒ノ數四十人以上ナルトキハ男女ニ依リ學級ヲ
區別スルヲ要ス尋常高等小學校ニ於テ男女學級ヲ區別スルニハ其ノ尋常ノ教科ヲ修ム
ル兒童ニ就テハ本條前段其ノ高等ノ教科ヲ修ムル兒童ニ就テハ後段ヲ適用ス

第十六條 正教科ノ兒童ト補習科ノ兒童トヲ合シテ學級ヲ編制セントスル場合ニ於テハ
其ノ事由及各學級毎ニ左ノ各號ヲ具シ市ニアリテハ直ニ町村ニアリテハ郡長ヲ經由シ
知事ノ認可ヲ受クヘシ

一合併スヘキ正教科兒童ノ各學年男女別員數

二合併スヘキ補習科兒童ノ各學年男女別員數

第十七條 尋常小學校若クハ其ノ分教場ニ於テ兒童ヲ二部ニ分チテ教授セントスルトキ

ハ左ノ各號ヲ具シ市ニアリテハ直ニ町村ニアリテハ郡長ヲ經由シ知事ノ認可ヲ受クヘ
シ

一在籍兒童各學年男女別員數

二各部學級ノ區別

三各部教授時刻ノ終始及各教科日毎週教授時間數

第十八條 學級ヲ編制シ又ハ之ヲ變更シタルトキハ十日以内ニ左ノ各號ヲ具シ市ニアリ

テハ直ニ町村ニアリテハ郡長ヲ經由シ知事ニ開申スヘシ

一學齡兒童數 男何人 女何人 (高等小學校ニアリテハ之ヲ省ク)

二就學兒童數 男何人 (前ニ同シ)
女何人

三學級數

第一學級 何學年 男何人 計何人
女何人

何學年 男何人

第二學級

何學年 男何人 計何人
女何人

(以下倣之)

第四節 補習科

第十九條

小學校ニ補習科ヲ設置セントスルトキハ左記ノ事項ヲ具シ市ニアリテハ直ニ
前村ニアリテハ郡長ヲ經由シテ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一教科目

二教科用圖書

三修業年限

四教授日並ニ毎週教授時數正教科教授時間内外ノ區別

五學級編制ノ區別及補習科男女兒童數

六教場ヲ校令外ニ設ケタルトキハ本校トノ距離並ニ附近ノ狀況及教場建物ノ坪數等ヲ

記シタル圖面

七補習科ニ要スル一ケ年收支豫算明細書並正式豫算書及市町村會議事録謄本

前項第一號乃至第六號ノ變更ヲ要スルトキハ直ニ開申スヘシ

第二十條 補習科ヲ廢止シタルトキハ其事由ヲ具シ市ニアリテハ直ニ町村コアリテハ那長ヲ經由シテ知事ニ開申スヘシ

第二十一條 一旦補習科ノ設置ヲ認可シタル小學校ト雖モ不適當ト認メタルトキハ之ヲ廢止セシムルコトアルヘシ

第二章 設備

第二十二條 校地ハ學校ノ規模ニ適應セル面積ヲ有シ兒童ノ通學ニ便ニシテ開豁乾燥ナル地ヲ撰ヒ階梯上忌難スヘキ場所、喧鬧ニシテ授業ニ妨アル場所、衛生ニ害アル場所、及危險ナル場所ニ接近スヘカラス

第二十三條 体操場ハ分チテ屋外体操場及屋内体操場トシ屋外体操場ハ方形若クハ長方形ニシテ其ノ面積ハ左ノ規定ニ依ルヘシ

一尋常小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪以上ノ割合トス

二高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ一人ニ付一坪半以上ノ割合トス

三尋常高等小學校ニ於テハ兒童百人未滿ハ百五十坪以上トシ兒童百人以上ハ尋常小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪以上高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童一人ニ付一坪半以上ノ割合トス但兒童百人以上ニシテ高等小學校ノ教科ヲ修ムル兒童百人未滿

ナルトキハ百五十坪ノ外全校兒童中百人ヲ超ユル兒童一人ニ付一坪以上ノ割合ヲ以テ増スモノトス

四特別ノ事情アルトキハ第一號及第三號ノ規定中一坪半ヲ一坪マテニ減スルコトヲ得

屋内体操場ハ雨雪ニ堪フヘキ設備チナスコトヲ要ス

屋内体操場ハ土地ノ情況ニ依リ之ヲ設ケサルコトヲ得

第二十四條 校地内ニハ善良ナル飲料水ヲ供給スルノ備ヲ爲シ又下水渠ヲ設クヘシ

第二十五條 校舍ノ建築ハ學校經濟ニ注意シ授業上管理上衛生上ノ便ヲ圖リ質朴堅牢ナルコトヲ主トスヘシ

校舍ハ特別ノ事情アル場合ヲ除ク外平屋造ト爲スヘシ

二棟以上ノ建物ヲ並列シテ建築スルトキハ其ノ相互ノ距離ハ少クトモ建物ノ高ト同尺

以上ナルヲ要ス

校舍ヲ新築スルニ方リテハ將來増加スヘキ兒童ノ員數ヲ見積リ將來ノ増築ニ便宜ナル

計畫ヲ爲シ又ハ成ルヘク豫備ノ教室ヲ設クルヲ要ス

第二十六條 校舍ニハ各學級ニ應スル通常教室及教員室ヲ設ケ尙便宜講堂、兒童控所、

雨中体操場、圖書器械標本室、宿直室、湯沸所、小使室、物置等ヲ設クヘシ

戴笠、唱歌等ヲ課スル學校ニ於テハ便宜特別教室ヲ設ケ必要ノ設備ヲ爲スヘシ

土地ノ情況ニ依リ教員ノ住宅ヲ設クヘシ

第二十七條 教室ノ構造ハ左ノ各項ニ準據スヘシ

多級學校ノ教室ハ幅三間半以上四間以下長四間以上五間以下單級學校ノ教室ハ幅及長各四間以上五間以下ヲ常例トシ其ノ大キハ前列兒童ノ前面凡一間ヲ除キ兒童四人ニ付一坪ヨリ小ナルヘカラス

天井ハ牀面ヲ距ルコト九尺以上トス

牀ノ高ハ二尺以上トシ牀下ノ四方ニ風抜ヲ設クヘシ

採光窓ノ總面積ハ牀面積ノ六分ノ一以上トシ其ノ下縁ノ位置ハ牀上凡二尺五寸ニ定メ其ノ上縁ハ牀上八尺五寸以上ニシテ成ルヘク天井ニ接近セシムヘシ但採光窓ノ上部ハ欄間ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

窓ハ兒童座席ノ前面及教臺ノ側面六尺以内ニ設クヘカラス

教室内ノ壁ハ中性色（灰色又ハ淡黃色ノ類）トスヘシ

各教室内壁下凡二尺五寸乃至三尺ノ所ハ成ルヘク腰板ヲ張ルヘシ

各教室ノ間ハ壁若クハ厚板ヲ以テ仕切ルヘシ

土地ノ情況ニ依リ成ルヘク暖房ノ裝置ヲ爲シ又暖房器ヲ備フヘシ

各教室ニハ通常二個ノ出入口ヲ設クヘシ

第二十八條 廊下ハ片廊下ヲ常例トシ其ノ幅六尺以上ナルコトヲ要ス

二階造ノ校舍ニ於テハ二個以上ノ階段ヲ設クヘシ
階段ハ幅四尺五寸以上蹴上ケ五寸乃至六寸踏面八寸乃至一尺トシ成ルヘク曲折構造ト爲シ中間ニ踊臺ヲ設ケ且手欄ヲ附スヘシ

第二十九條 昇降口ハ成ルヘク男女ヲ區別シ常風ノ方向ヲ避クヘシ

第三十條 便所ハ別棟トシ夏季常風ノ方向ニ注意シ校舍ヲ距ルコト三間以上并テ距ルコト四間以上ノ位置ニ設クヘシ

糞壺、尿槽、注壁等ハ不滲透物ヲ以テ之ヲ造ルヘシ

便所ハ男女ヲ區別シ男兒百名ニ付大便所二以上小便所四以上、女兒百名ニ付五以上ノ割合ヲ以テ之ヲ設クヘシ

便所ハ成ルヘク日蔭ノ場所ヲ撰ヒ空氣ノ流通ヲ好クシ臭氣ノ鬱滯ヲ防クヘシ

第三十一條 校具ハ甲乙ノ二種トシ教授用ニ充ツルモノヲ甲種トシ其ノ他ヲ乙種トス

尋常小學校ニ於テ備フヘキ甲種ノ校具ハ左ノ如シ

教科用圖書、教師用參考圖書、教育ニ關スル法令、辭書、地圖（管内、及日本）度量衡、算數器、算盤、庶物標本、黑板等

高等小學校ニ於テ備フヘキ甲種ノ校具ハ左ノ如シ

前項ノ外史談、傳記、紀行、地理、歴史等ニ關スル繪圖、寫真、標本、動植物及實用器械ノ圖解、理科教授用具、裁縫用具、体操器械、樂器等

尋常小學校及高等小學校ニ於テ前項規定外ノ教授用具ハ各學校ノ等位學級ノ編制又ハ教科目ノ種類ニ應レテ備フヘキモノトス

尋常小學校及高等小學校ニ於テ備フヘキ乙種ノ校具ハ國旗、門札、兒童用ノ机、腰掛、教員用ノ机、腰掛、時計、寒暖計、諸帳簿、硯箱並附屬品、書籍棚、戸棚其他必要ナル器具トス

尋常高等小學校ニ於テハ前項ニ依リ必要ノ校具ヲ備フヘシ
 第三十二條 兒童用机腰掛ノ寸法ハ左表ノ標準ニ依リ尋常小學校ニ於テハ一號乃至三號
 ノ三種高等小學校ニ於テハ三號乃至五號ノ三種尋常高等小學校ニ於テハ一號乃至五號
 ノ五種ヲ備ヘ兒童ノ身長ニ適應セシムルコトヲ要ス

小學校兒童用机及腰掛寸法表

項目	番號	一 号	二 号	三 号	四 号	五 号
身 長		一〇〇以上 一〇〇未滿	一一〇以上 一一〇未滿	一二〇以上 一二〇未滿	一三〇以上 一三〇未滿	一四〇以上 一五〇未滿
机ノ高		一五五〇	一七〇〇	一八五〇	二〇〇〇	二一五〇
机ノ幅		二二〇〇	同	同	同	同
机ノ長	二人掛	二六〇〇乃至 二六〇〇	同	三六〇〇	同	同
腰掛ノ高		八六〇	九四〇	一〇二〇	一一〇〇	一一八〇
腰掛ノ幅		八三〇	九〇〇	九八〇	一〇六〇	一一四〇
腰掛ノ長	一人掛	三三〇乃至 三三〇	同	三三〇	同	同

倚	横木ノ高	五、〇〇	五、四〇	五、八〇	六、二〇	六、六〇
靠	横木ノ幅	二、〇〇	同	同	同	同

本表中身長欄ハ「センチメートル」其ノ括弧内ノ數及机ノ高以下ハ曲尺ノ寸ヲ以テ一位トス

第三十三條 新ニ校地及体操場ヲ選定シ若クハ校舍ヲ建築シ又ハ現在ノ校地校舍及体操場ニ變更ヲ加ヘントスルトキハ其事由ヲ詳具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條 校地ノ變更校舍ノ新築等ヲナスニアラサレハ本章ノ規定ニ據リ難キモノハ其ノ時ヲ待テ之ニ依ルコトヲ得ト雖モ前各條ノ規定ハ概テ教育上衛生上必要ナル事項ニ屬スルヲ以テ事情ノ許ス限リ速ニ之ヲ改良スヘシ

但監督官團ニ於テ猶豫スヘカラスト認メタル場合ニハ事情ノ如何ニ關ハラズ期限ヲ定メ適當ノ設備ヲ命スルコトアルヘシ

第三十五條 本章ノ規定ハ補習科ノ設備ニ關シ之ヲ適用セス

第三章 就學

第三十六條 市町村長ハ毎年其ノ學年ノ始ニ於テ就學セシムヘキ兒童ヲシテ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘキ期日ヲ定メ毎年一月二十日マテニ之ヲ其ノ保護者ニ通知スヘシ

第三十七條 兒童ノ保護者ニ於テ前條ノ通知ヲ受クルモ小學校令第三十三條ニ掲グル事由アルトキハ二月十日マテニ就學ノ猶豫又ハ就學義務ノ免除ヲ市町村長ニ申立ツヘ

第三十八條 兒童ノ保護者ニシテ第三十七條ノ申立ヲナシタル者ニ就テハ市町村長ハ其ノ事實ヲ精査シ正當ト認メタルトキハ其ノ事情ヲ詳具シ二月末日限リ監督官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第三十九條 兒童ノ保護者ニ於テ其ノ兒童ヲ當然入學セシムヘキ學校以外ノ市町村立尋常小學校ニ入學セシメ又ハ師範學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ二月十日マテニ關係市町村長ニ申立其ノ小學校ノ管理者又ハ師範學校長ノ承認書ヲ添ヘ二月末日マテニ市町村長ニ届出ツヘシ

兒童ノ保護者ニ於テ小學校令第三十六條第一項但書ノ認可ヲ受ケントスルトキハ二月十日マテニ市町村長ニ申立ツヘシ

第四十條 市町村長ニ於テ第三十六條ノ通知ヲナシタル後其ノ年四月ニ於テ就學ノ始期ニ達スヘキ兒童其ノ市町村ニ來住シタルモノアルトキハ直ニ第三十六條ノ通知ヲナスヘシ

市町村長ハ就學期間中ニアル兒童其ノ市町村ニ來住シタルモノアルトキハ直ニ其ノ保護者ニ對シ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘキ旨ヲ通知スヘシ但其ノ保護者ノ他ノ市町村ニ於テ就學ヲ猶豫セラレ若クハ就學義務ヲ免除セラレタルモノニ就テハ此ノ限ニアラス

第四十一條 市町村長ハ第三十六條ノ通知ヲナシタル兒童ノ住所氏名生年月其ノ保護者

ノ住所氏名職業及兒童入學ノ期日ヲ二月末日マテニ關係學校長ニ通知スヘシ其ノ通知
ヲナシタル後兒童ノ就學ニ關シ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度更ニ通知スヘシ
第三十九條第一項ノ兒童ノ保護者ニ承認書ヲ與ヘタルトキ及第四十條ノ通知ヲナシタ
ルトキ亦前項ニ同シ

第四十二條 第三十九條第一項ノ兒童ニシテ入學期日後七日以内ニ入學セサル者アルト
キハ小學校長ハ其ノ學校ノ管理者ニ報告シ管理者又ハ師範學校長ハ兒童現住地ノ市町
村長ニ通報スヘシ

兒童現住地ノ市町村長前項ノ通報ヲ受ケタルトキハ小學校令施行規則第九十三條ノ規
定ニ依ルヘシ

第四十三條 市町村長ハ小學校令第三十六條第一項但書ノ規定ニ依リ尋常小學校ノ教科
ヲ修ムル兒童ニ對シテハ毎月一回以上其ノ教育ノ實況ヲ視察スヘシ

第四十四條 小學校長ハ傳染病豫防法第一條ニ掲ル八種傳染病又ハ豫防法ノ施行ヲ必要
トスル傳染病ニ罹リ若クハ其ノ疑アル兒童アルトキハ退滞ナク其ノ出席ヲ停止スヘシ
兒童一家中前項ノ傳染病ニ罹リタルモノアルトキ亦同シ

第四十五條 麻疹、疥癬等他人ニ傳染ノ虞アル疾病若クハ流行病ニ罹リタル兒童アルト
キハ必要ノ期間其ノ出席ヲ停止スルコトヲ得

第四十六條 小學校長ニ於テ第四十四條第四十五條ノ認定上ニ關シ醫師ノ診斷ヲ必要ト
認ムルトキハ先ツ學校醫ノ意見ヲ聞クヘシ但學校醫ヲ置カサル學校ニ於テハ市町村長

ト合議シ開業醫師ヲシテ診斷セシムヘシ

第四十七條 第四十四條第四十五條ニ依リ出席ヲ停止セラレタル兒童ニシテ其ノ事故消滅シタルトキハ兒童保護者ヨリ其ノ旨小學校長ニ届出ツヘシ

小學校長ニ於テ前項届出ニヨリ停止ヲ解キタルトキハ直ニ市町村長ニ通報スヘシ

第四十八條 小學校長ハ性行不良ノ兒童ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認メタルモノニ出席ヲ停止シタルトキハ其ノ事由ヲ市町村長ニ通報スヘシ其ノ停止ヲ解キタルトキ亦同シ

第四十九條 本章ニ於テ市町村立尋常小學校トアルハ代用私立尋常小學校ヲ包含ス

第四十條 小學校教員試験指定施行ノ期日及試験場ハ一ケ月前ニ於テ之ヲ告示スヘシ

第五十一條 指定ヲ請ハントスル者ハ第一號第二號書式ニ據リ檢定願書ニ履歷書ヲ添ヘ

所管郡市長ヲ經テ知事ニ差出スヘシ

試験指定ヲ申請シタルモノニシテ試験ニ出席スルコト二回以上ニ及フトキハ願書ノ効力ヲ失フモノトス

第五十二條 指定ノ合格及不合格ハ所管郡市長ヲ經テ之ヲ出願者ニ通知スヘシ

第五十三條 指定手数料ヲ定ムルコト左ノ如シ

小學校本科正教員及准教員 金七拾五錢

尋常小學校本科正教員及准教員 金五拾錢

縣報第二十六號

明治三十三年十二月廿四日

十九

小學校專科正教員

金五拾錢

第五十四條 檢定手数料ハ第五十一條ノ願書ト同時ニ縣金庫ニ納付スヘシ

前項ニ依リ一旦納付シタル手数料ハ何等ノ事由アルモ之ヲ還付セス

第五十五條 郡長ニ於テ檢定手数料ヲ納入シタルトキハ願書欄外ニ手数料納入済ノ旨ヲ記載シ遅滞ナク知事ニ差出スヘシ

第五十六條 明治三十三年八月文部省令第十四號小學校令施行規則第百十三條ニ依リ其

ノ科目ニ關シ其ノ試験ヲ闕クコトヲ得ヘキ學科目ハ本人ノ出願ニ依リ檢定委員會ノ評

決ヲ經之テ省除スルコトヲ得

前項ノ願書ハ第三號書式ニ依ルヘシ

第五十七條 無試験檢定出願者ニシテ志望ノ教員資格ニ合格セスト雖モ自餘ノ教員タル

ニ適スト認ムルトキハ相當ノ免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ

前項ノ免許狀ヲ受ケントスル者ハ檢定出願ノ際第四號書式ノ副願書ヲ差出スヘシ

第五十八條 無試験檢定出願者ニシテ免許狀ヲ授與スルニ至ラサルモ某教員ノ合格ヲ

認ムルトキハ該科目ニ對スル合格證明書ヲ授與スルコトアルヘシ此場合ニアリテハ自

餘ノ科目ニ就キ試験檢定ヲ出願スルコトヲ得

第五十九條 試験檢定出願者ニシテ免許狀ヲ授與スルニ至ラサルモ某科目ニ於テ相當ノ

成績ヲ得タルトキハ該科目ニ對スル合格證明書ヲ授與スルコトアルヘシ此ノ場合ニア

リテハ自餘ノ科目ニ就キ更ニ試験檢定ヲ出願スルコトヲ得

リテハ自餘ノ科目ニ就キ更ニ試験檢定ヲ出願スルコトヲ得

前項ニ據リ更ニ試験檢定ヲ出願スル場合ト雖モ檢定願書ノ様式及添付書類ハ仍第五十
一條第一項ノ規定ニ據ルヘシ

第六十條 教員免許狀ヲ有スル者其ノ氏名ヲ變更シ又ハ免許狀ヲ毀損亡失シ書換若クハ
再渡ヲ出願セントスルモノハ手数料トシテ金五拾錢ヲ縣金庫ニ納付スヘシ

第六十一條 免許狀ノ書式左ノ如シ
師範學校卒業生ニ與フルモノ

小學校教員免許狀

何學校卒業生

族 籍 氏 名

生 年 月

右ハ和歌山縣管内ニ於テ小學校本科(尋常小學校本科)正教員タルコトヲ免許ス
年 月 日

和歌山縣知事位勳爵氏名印

番 號

師範學校卒業生ニ非サルモノニ與フルモノ

小學校教員免許狀

何科何科
何科何科

族 籍 氏 名

生 年 月

右ハ前記ノ科目ニ就キ檢定シ和歌山縣管内ニ於テ小學校本科正教員(小學校准教員)

縣報第二十六號

明治三十三年十二月廿四日

(尋常小學校本科正教員)(尋常小學校准教員)(小學校專科正教員)タルヲテ免許ス

年 月 日

番 號

和歌山縣知事位勳爵氏名印

第一號書式(用紙半紙)

小學校教員檢定願

私儀和歌山縣内ニ於テ小學校(尋常小學校)本科正(准)教員(小學校專科何々科正教員)志願ニ候間試験檢定(無試験檢定)相受度別紙履歷書相添此段相願候也

年 月 日

何府縣何郡(市)何町(村)大字何々番地居住
何府縣華士族平民戸主(何誰何男)(女)等

和歌山縣知事宛

氏 名 印

前書何ノ誰年齢及賞罰等ニ關スル件調査候處別紙履歷書ノ通相違無之依テ証明候也

年 月 日

何府縣郡町村長(又ハ市長)氏名印

第二號書式(用紙半紙)

履 歷 書

族 籍

現在ノ職務及俸給又ハ職業等

免許狀及證書

一何々免許狀(何年何月何日受領、何府縣又ハ何々)

一何々卒業證書(何學校又ハ何々)

一何々證書(同上)

(免許狀及證書寫ハ別紙ニ認ムヘシ)

學業

一年月日何學校ニ入學、年月日何科卒業

一年月日何々ニ就キ何科修業又ハ講習シ年月日修了

業務

一年月日何府縣内小學校訓導ニ任セラレ月俸何圓給與セラレ

一年月日月俸何圓給與

一年月日何官職拜命或ハ何業ニ從事シ年月日依願免官又ハ退職或ハ廢業又ハ現在職從事等合計小學校訓導(准訓導)ノ職ニアルコト何年何ヶ月何々ノ職ニアルコト何年何ヶ月

賞罰

一年月日何所ニ於テ何々ノ廉ニヨリ何々ノ賞與

一年月日何所ニ於テ何々ノ廉ニヨリ何々ノ罰ヲ受ク

氏名
生年月日

右之通相違無之候也

年月日

右氏名印

第三號書式(用紙半紙)

試驗檢定科目省除願

何々學校卒業生
何々免許狀所有

氏名

私儀今般小學校(尋常小學區)本(專)科正(准)教員試驗檢定出願仕候付相當ノ學科御
省除被成下度此段相願候也

年月日

右氏名印

和歌山縣知事宛

第四號書式(用紙半紙)

副願

私儀今般小學校本(專)科(尋常小學校本科)正教員無試驗檢定出願仕候處檢定ノ上右
資格ニ對スル免許狀御下附相成候節ハ御再查ノ上相當免許狀御下附被成下度此段副
願候也

年月日

氏名印

和歌山縣知事宛

第五章 職員

第一節 學校長及教員ノ進退

第六十二條 郡市長ニ於テ市町村立小學校教員ノ任用ヲ申請スルトキハ現職名、俸給額、氏名、免許狀ノ種類、任用スヘキ學校名、職名及俸給支給額ニ關スル意見書ヲ具シ進達スヘシ

第六十三條 他ノ郡市内ニ在職スル小學校教員ノ轉任ヲ申請セントスルトキハ先其所管郡市長ニ照會シテ承認ヲ求ムヘシ

前項ニ依リ轉任ノ承認ヲナシタル郡市長ハ全時ニ其ノ事由ヲ具シ後任者ヲ知事ニ推薦シ又ハ後任者ニ關スル意見ヲ開申スヘシ

全一ノ郡市内ニ於テ轉任ノ申請ヲナサントスルトキハ其ノ後任者ト全時ニ申請シ又ハ後任者ニ關スル意見ヲ開申スヘシ

第六十四條 市町村立小學校長ハ郡市長ニ於テ當該小學校正教員中適任ト認ムルモノニ就キ意見ヲ開申スヘシ

第六十五條 市町村立小學校教員ノ休職退職ヲ命スヘキ場合アルトキ若クハ正當ノ理由ニ基キ退職ヲ願出タルモノアルトキハ郡市長ハ其ノ事實ヲ詳查シ意見ヲ開申スヘシ

第六十六條 市町村立小學校教員ノ増俸ヲ要スルトキハ郡市長ヨリ其ノ意見ヲ開申スヘシ但明治三十年勅令第二号第二條第二項ニ依リ義務額ヲ超エテ支出スルノ必要アリト認ムルトキハ市參事會又ハ町村長ノ意見書ヲ添付スヘシ

第六十七條 市町村立小學校ニ專科正教員又ハ明治三十三年文部省令第十四号小學校令

施行規則第三十五條第三項及全第三十六條ニ依リ補助教授スル教員ノ任用ヲ要スルトキハ郡市長ニ於テ其ノ俸給額ニ關スル市參事會又ハ町村長ノ意見書ヲ添付シテ開申スヘシ其ノ増給ヲ要スルトキ亦全シ但本條ニ依リ一旦定マリタル俸給額以內ニ於テ更ニ申請スルトキハ意見書ノ添付ヲ要セス

第六十八條 休職ヲ命セラレタル市町村立小學校正教員ニシテ其ノ休職ノ期限滿ツルトキハ郡市長ニ於テ直ニ開申スヘシ

第六十九條 市町村立小學校准教員左ノ各号ノ一ニ該當シタルトキハ當然退職者トス

一陸海軍現役ニ服シタルトキ

二戰時事變ニ際シ召集セラレタルトキ

三當該學校ノ廢セラレタルトキ

前項ニ該當スルモノアルトキハ郡市長ハ直ニ其ノ職名氏名ヲ開申スヘシ

第七十條 市町村立小學校准教員左ノ各号ノ一ニ該當スルトキハ退職ヲ命スヘシ

一傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リ又ハ身體精神ノ衰弱ニ因リ職務ヲ執ルニ堪ヘサルトキ

二學校編制ノ變更等ニ因リ過員ヲ生シタルトキ

三教員養成ヲ目的トスル學校ニ入學スルトキ

四自己ノ便宜ニ因リ退職ヲ出願シタルトキ

五刑事事件ニ關シ告訴若クハ告發セラレタルトキ

第七十一條 市町村立幼稚園長保母及盲啞學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校教員任用

解職ニ關シテハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第七十二條

私立小學校ニ於テ學校長及教員ヲ採用セントスルトキハ履歷書ヲ添ヘ知事ノ認可ヲ受クヘク之ヲ解職スルトキハ設立者ヨリ郡市長ヲ經由シテ届出ツヘシ

第二節

學校長及教員ノ職務及服務

第七十三條

學校長及教員ハ明治三十三年文部省令第十四号小學校令施行規則第五章第

第七十四條

學校長ノ整理スヘキ職務概テ左ノ如シ

一 校地及校舍ノ保管ニ關スル事項

二 校具ノ整理及其ノ保管ニ關スル事項

三 消耗品ノ使用ニ關スル事項

四 令達文書及諸帳簿ノ整頓保管ニ關スル事項

五 教授ノ分担時間割及教案等ニ關スル事項

六 學校ノ風紀ニ關スル事項

七 職員ノ勤惰監督ニ關スル事項

八 學校衛生ニ關スル事項

九 其ノ他法律命令ノ規定ニ依リ處理スヘキ事項

第七十五條

教員ハ學校長ノ指揮ニ從ヒ其ノ職務ニ服スヘシ

第七十六條

學校長ハ職務ヲ整理スル爲メ教員ニ便宜事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第七十七條 學校長及教員ハ毎日規定ノ時限前ニ出務シ終業時間後翌日ノ教授準備作文習字等ノ添削訂正諸帳簿ノ整理其ノ他必要ノ事務ヲ終ルニアラサレハ退出スヘカラス

第七十八條 學校長及教員ハ學校以外ニ於テモ常ニ兒童ノ監護及訓練ニ注意スヘシ

第七十九條 御影ヲ拜戴シ又ハ複寫シタル 御影ヲ奉藏シタル學校若クハ多級學校ニ於

テハ職員交互宿直スヘシ但特別ノ事情アルトキハ市ニアリテハ知事町村ニアリテハ郡長ノ認可ヲ受ケ本條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第八十條 學校長及教員ニシテ學校所在ノ市町村以外ニ居住セントスルトキハ豫メ期限ヲ定メ郡市長ノ認可ヲ受クヘシ

第八十一條 學校長及教員任命ノ辭令ヲ受ケタルトキハ七日以内ニ出發赴任シ着任ノ上ハ直ニ郡市長ニ届出ツヘシ若シ疾病事故ニ依リ其ノ期日内ニ出發シ難キ場合ニ於テハ其ノ旨豫メ赴任先ノ郡市長ニ届出ツヘシ

第八十二條 學校長轉任休職又ハ退職ノ命ヲ受ケタルトキハ後任者ニ事務ヲ引繼キ速署ヲ以テ市町村長ニ報告スヘシ若シ後任者未定又ハ着任遲延等ノトキハ特別ノ命令アル場合ノ外ハ其ノ事務ヲ次席ノ教員ニ引繼クヘシ若シ次席以下ノ教員ニ差支アルハ市町村長ニ引繼クヘシ教員轉任休職又ハ退職ノ命ヲ受ケタルトキハ事務引繼書ヲ作り學校長ニ引繼クヘシ

第八十三條 學校長及教員族籍住所氏名ノ變換其ノ他身分ニ異動ヲ生シタルトキハ遲滞ナク知事ニ届出ツヘシ

第八十四條

學校長及教員忌引ノ爲メ缺勤スルトキハ郡市長ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ特別ノ命令アルノ外左ノ日限ヲ以テ除服出仕ヲ命シタルモノトス

一 父母(養父母)繼父母夫ノ父母亦同シ祖父母(養祖父母)亦全シ夫妻ハ七日間

第八十五條

學校長及教員私事(父母ノ病氣看護又ハ忌中及年回墓參等)ニ由リ住居ノ地ヲ離レントスルハ郡市長ノ許可ヲ受クヘシ若シ事急遽ニ出テ、其ノ許可ヲ待ツ能ハサルトキハ直チニ發足シ即日其理由ヲ郡市長ニ届出ツヘシ

第八十六條

學校長及教員疾病ノ爲メ缺勤セントスルトキハ郡市長ニ届出ツヘシ若シ缺勤七日以上ニ及フトキハ七日毎ニ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ其ノ届書ヲ差出スヘシ疾病ノ爲メ轉地療養セントスルトキハ豫メ其ノ場所及日限ヲ定メ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ郡市長ノ許可ヲ受クヘシ

第八十七條

學校長及教員休暇中校務ニ差支ナキ場合ニ於テ五日以上旅行セントスルハ其ノ場所及日限ヲ具シテ郡市長ニ届出ツヘシ

第八十八條

學校長及教員職務上必要ノ事由學校參觀又ハ講習會教育會等ニ出席スル場合ニ因リ旅行セントスルハ豫メ其ノ目的場所及日限ヲ具シ郡市長ノ許可ヲ受クヘシ但旅行日數三日以内ナルトキハ豫メ郡市長ニ届出ツヘシ

第八十九條

學校長及教員他ノ遺屬府縣ニ教員檢定ヲ出願セントスルトキハ豫メ知事ノ許可ヲ得タル者ハ歸校後十日以内ニ報告書ヲ郡市長ニ差出スヘシ

許可ヲ受クヘシ

第九十條 本節ニ依リ學校長及教員ヨリ知事ニ差出スヘキ書類ハ郡市町村長ヲ經由スヘキ書類ハ郡市町村長ヲ經由スヘシ

ク郡長ニ差出スヘキ書類ハ町村長ヲ經由スヘシ

次席以下ノ教員ヨリ差出スヘキ書類ハ先ツ學校長ヲ經由スヘシ

第九十一條 本節ハ市町村立幼稚園暨學校及小學校ニ類スル各種學校職員ノ職務及服

務ニ關シ之ヲ準用ス

第三節 俸給旅費及諸給與

第九十二條 教員ノ俸給額ハ左ノ等級表ニ依ル但其ノ最低額ハ明治三十年勅令第二號第

六條ノ金額マテニ減スルコトヲ得

職名	等級										
	一級	二級	三級	四級	五級	六級	七級	八級	九級	十級	
本 科 正 教 員	上	七十五圓	六十圓	五十圓	四十圓	三十圓	二十四圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓
	下	六十五圓	五十五圓	四十五圓	三十五圓	二十七圓	二十二圓	十八圓	十四圓	十二圓	十圓
專 科 正 教 員	上	四十圓	三十圓	二十四圓	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	九圓	七圓	
	下	三十五圓	二十七圓	二十二圓	十八圓	十四圓	十二圓	十圓	八圓	六圓	
准 教 員	上	二十圓	十六圓	十三圓	十一圓	九圓	七圓				
	下	十八圓	十四圓	十二圓	十圓	八圓	六圓				

第九十三條 本科正教員ニシテ一級上俸ヲ受ク特ニ功勞アルモノハ漸次百圓迄増給スルコトアルヘシ

第九十四條 専科正教員ノ俸給ハ其ノ教授時數ニ應シ等級相當ノ俸給額ヲ減スルコトヲ得

第九十五條 教員ノ俸給ハ辭令ヲ以テ之ヲ定ム

第九十六條 市町村ハ第九十五條ノ辭令ニ依リ教員ノ俸給ヲ交付スヘシ

第九十七條 専科正教員ニシテ他ノ小學校ノ専科正教員ヲ兼ヌル者ニハ關係學校ノ經費

ヨリ其ノ俸給ヲ分割シテ給スルコトヲ得

第九十八條 教員ノ俸給ハ其ノ意ニ反シテ之ヲ減スルコトヲ得ス

第九十九條 市町村ハ休職中ノ正教員若クハ在職中ノ教員ニシテ小學校教員講習科ニ入

學スル者ニ對シテハ俸給ノ全部又ハ其ノ一部ヲ交付スルコトヲ得

第一百條 教員ニシテ陸軍給與令又ハ海軍々人俸給令ニ依リ俸給ヲ受クル者ニハ其ノ間俸

給ヲ給セス但其ノ額本職ノ俸給額ヨリ寡少ナルトキハ其ノ不足額ヲ給スルコトヲ得

第一百一條 教員ニシテ死亡シタルトキハ其ノ在職中ト休職中トニ拘ハラズ在職最終ノ月俸

額三ヶ月分ヲ其遺族ニ給スヘシ

第一百二條 教員左ノ各号ノ一ニ該當スルトキハ當月分ノ給料ハ日割ヲ以テ給スヘシ

一懲戒ニ依リ免職ニ處セシメタルトキ

二免許狀被奪又ハ免許狀ノ失効ニ因リ教員ノ職ヲ失ヒタルトキ

第三百三條 教員ニシテ傷疾疾病ノ爲メ勤務ヲ欠クコト九十日ヲ踰ユルトキ又ハ私事ノ故
障ニヨリ勤務ヲ欠クコト三十日ヲ踰ユルトキハ其ノ翌日ヨリ俸給ノ半額ヲ減ス但シ職
務ノ爲メ傷疾ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキハ此ノ限ニアラス

第三百四條 俸給交付ノ定日ハ毎月二十一日トシ休暇日ニ當ルトキハ繰下ケトス但轉任退
職又ハ死亡ノトキハ本文ノ定日ニ拘ハラズ直ニ之ヲ交付スヘシ

第三百五條 一ヶ月未滿ノ俸給計算法ハ左ノ各号ニ據ルヘシ

一 新任及増俸減俸ノトキハ辭令日付ノ翌日ヨリ日割計算トス
二 轉任ノトキハ前任學校ニ屬スル俸給ハ辭令日付ノ當日迄新任學校ニ屬スル俸給ハ辭
令日付ノ翌日ヨリ日割計算トス

三 休職ノトキハ其ノ月ノ俸給全額ヲ給シ復職ノトキハ辭令日付ノ翌日ヨリ日割計算ト
ス

四 俸給ノ半減ハ其ノ半減ノ日ヨリ事故ノ止ミタル日迄日割計算ヲ以テ控除スルモノト
ス

五 免職又ハ失職ニ該當シタル者ハ其ノ當日迄日割計算トス

六 前諸項ノ日割計算ハ其ノ月ノ現日數ニ依ル但計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキ
ハ切捨トス

第三百六條 教員ニシテ一週三十時ヲ超エ教授ヲ担任スル者ニハ手當ヲ交付スヘシ

第三百七條 學校長又ハ教員ニシテ特ニ功勞アル者ニハ慰勞金ヲ交付スヘシ

第八八條 教員ニシテ宿直スル者ニハ賄料ヲ交付スヘシ

第九九條 學校長又ハ教員ニシテ職務ノ爲メ傷痕ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者ニハ療治料ヲ交付スヘシ

第十十條 教員住宅ノ設ケナキ學校ニ於テハ可成住宅料ヲ交付スヘシ

第十一條 第六六條第七條ノ場合ニ於テハ市ニアリテハ直ニ町村ニアリテハ郡長ヲ經由シテ意見ヲ知事ニ差出スヘシ

知事ニ於テ前項ノ意見ヲ相當ト認メタルトキハ之ヲ認可シ市町村ハ其ノ金員ヲ本人ニ交付スヘシ

第十二條 第八八條乃至第十十條ニヨリ管理者ニ於テ其ノ金額ヲ決定シタルトキハ市

知事ニ町村ハ郡長ニ開申スヘシ
 第十三條 學校長又ハ教員職務上旅行チナストキハ左ノ等級ニ依リ市町村ニ於テ其ノ旅費ヲ支給スヘシ

資格	種別		正教員	准教員
	一哩ニ付	一海里ニ付		
汽船	四錢	四錢	四錢	三錢
馬車	十二錢	十五錢	十二錢	八錢
日當一日ニ付	三十錢	四十錢	三十錢	廿五錢
宿泊料一泊ニ付	六十錢	八十錢	六十錢	五十錢
縣外	四錢	四錢	四錢	三錢
縣內	三錢	三錢	三錢	三錢
縣外	三錢	三錢	三錢	三錢
縣內	三錢	三錢	三錢	三錢

第百十四條 學校長又ハ教員ニシテ教員講習會ニ出席スルトキハ前條ノ旅費額ニ依ラス

レテ其ノ半額以内ニ減額支給スルコトヲ得

第百十五條 汽車賃、船賃及馬車賃ハ其ノ種類毎ニ經過シタル路程ノ總數ヲ合算シテ之ヲ支給シ、日當宿泊料ハ行程ノ日數及宿泊ノ度數ニ應ジテ之ヲ支給ス、其ノ現日數ヲ計算シ難キ場合ニ於テハ一日ノ行程、瀨車路二百哩、海路百海里、陸路十里ヲ以テ日當及宿泊料ヲ計算ス、此ノ場合ニ於テ一日ノ行程未滿ノ端數ヲ生スルトキハ仍ホ一日ヲ以テ計算シ日當ヲ支給スヘシ

第百十六條 陸路往復六里未滿、瀨車路往復十里未滿、海路往復十里未滿ノ旅行ニハ日當ヲ支給セス、但職務上ノ都合ニヨリ宿泊シタルトキハ日當及宿泊料ヲ支給スヘシ

第百十七條 赴任旅費ハ新任ノ者ニアリテハ現住地ヨリ新住地マテノ旅費ヲ給シ、轉任ノ者ニアリテハ瀨車賃、船賃、馬車賃ニ限リ、定額ノ二倍ヲ支給スヘシ

第百十八條 退職ノ際、事務引繼、殘務整理其他職務上旅行スルトキハ前職相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第百十九條 旅行中死亡シタル者又ハ旅行中廢校若クハ學級編制ノ變更等ニヨリ退職トナル者ハ其地ヨリ舊任地迄前職相當ノ旅費ヲ支給スヘシ

第百二十條 旅行中天災、事變、疾病等ノ爲メ他路ヲ迂回シ又ハ滞在シ若クハ目的ノ地ニ到ルコト能ハスシテ、阪校シタルトキハ仍ホ其ノ旅費ヲ支給ス、此ノ場合ニ於テハ證明書又ハ醫師診斷書ヲ市町村長ニ差出スヘシ

第二百一十一條 市町村ハ教員ノ請求書及旅行日誌并第二百十條ノ証明等ニ依リ精算ノ上旅費ヲ支給スヘシ但旅行中死亡シタル者ヨアリテハ遺族ノ請求ヲ俟テ之ヲ交付スヘシ

第二百一十二條 市町村ハ教員ノ請求ニ依リ旅費ノ概算前渡ヲナスコトヲ得

第二百一十三條 市町村立幼稚園長保母官陸學校其他小學校ニ類スル各種學校教員俸給旅費額及其支給方法ハ前數條ノ規定ヲ準用ス

第四節 代用教員

第二百一十四條 小學校ニ正當ノ資格アル教員ヲ得難キ場合ニ於テ代用教員ヲ命セシトスルトキハ左ノ資格ヲ具備スルモノヨリ採用スヘシ

一 修業年限四ヶ年ノ高等小學校ヲ卒業シタルモノ若クハ之レト同等以上ノ學力ヲ有スルモノニシテ教授法ノ大意ニ通スルモノ

二 身體健全品行方正ニシテ將來小學校教員タラントスル志望堅實ナルモノ

三 小學校令施行規則第四百四條ノ各號ニ抵觸出サルモノ

第二百一十五條 代用教員ヲ採用シタルトキハ其代用期間ニ於テ小學校教員檢定ヲ受クルノ義務ヲ負ハシムルヲ得

第二百一十六條 代用教員ヲ採用シタルトキハ其ノ族籍氏名生年月採用小學校名俸給支給額及學級數并現任教員ノ資格員數等ヲ具シ申報スヘシ

第二百一十七條 代用教員ヲ解職シタルトキ又ハ懲戒處分ヲシタルトキハ其ノ事由ヲ具シテ直ニ申報スヘシ

第二百二十八條 代用教員ノ職務及服務ニ關シテハ本章第二節中准教員ニ關スル規定ヲ準用ス

第二百二十九條 代用教員ノ俸給旅費其ノ他諸給與ニ關シテハ本章第三節中准教員ニ關スル規定ヲ準用ス

第六章 授業料

第三百十條 尋常小學校ニ於テ授業料ヲ徵收シ又ハ増減セントスルトキハ其ノ理由及左ノ事項ヲ詳具シ市ハ直ニ町村ニアリテハ郡長ヲ經由シ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一 兒童一人一ヶ月授業料額

但授業料ニ等差ヲ付スルトキハ其ノ各等級一人ノ授業料額

二 授業料一ヶ年度徵收見込額

三 市町村税中地價割ノ賦課率及戸別割一戸平均負担額

但町村學校組合ニアリテハ關係町村ノ分

四 基本財産ノ有無其ノ種類及財産ヨリ生スル收入

第三百十一條 高等小學校ニ於テ徵收スル授業料ハ市ハ知事町村ニアリテハ郡長ノ認可ヲ受クヘシ但一旦定マリタル授業料ニシテ増減ヲナサハルトキハ其ノ都度本文ノ規定ニ依ルヲ要セス

第三百十二條 小學校補習科ノ授業料額ヲ定メタルトキハ市ハ知事ニ町村ニアリテハ郡長ニ開申スヘシ

第三百三十三條 一家ノ兒童二人以上全時ニ一小學校ニ就學スルトキハ上級生一人ノ外定額ノ授業料ヲ半額スルコトヲ得

經濟共通ノ小學校ニ於テハ其ノ學校ヲ異ニスルモ仍ホ前項ニ依ルコトヲ得

第三百三十四條 授業料徵收期日ハ管理者ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三百三十五條 小學校ニ於テ引續キ休業スルコト全一箇月以上ニ及ヒタルトキ又ハ兒童正當ノ事由ニ依リ缺席スルコト全一箇月以上ニ及ヒタルトキハ其ノ月ノ授業料ヲ徵收スルコトヲ得ス

第七章 幼稚園暨學校及小學校ニ類スル各種學校

第三百三十六條 幼稚園ヲ設置セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ニ遊園并建物ノ坪數等ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ知事ノ許可ヲ受クヘシ

一名稱

二位置

三保育料額

四休日及每週保育時間數

五幼兒定員

六經費收入支出豫算

七基本財産ノ有無及其ノ種別員數

八設立者ノ履歷(私立ニ限ル)

第三百三十七條 各種學校其ノ他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ヲ設置セントスル
トキハ左ノ事項ヲ記載シタル書類ニ校地、校舎、寄宿舎ノ坪數ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ
知事ノ許可ヲ受クヘシ

一名稱

二位置

三學校ノ種別

四生徒定員并ニ年齢制限

五經費收入支出豫算

六基本財産ノ有無及其ノ種別員數

七設立者ノ經歷(私立ニ限ル)

八學期

學期ニハ修業年限、學年、學期、休日ニ關スル事項、學科課程、授業時間、授業料、
入學料ニ關スル事項、試験ニ關スル事項、入學退學ニ關スル事項、職員ノ職務ニ
關スル事項等ヲ規定スヘシ

第三百三十八條 第三百三十六條及第三百三十七條第一項第一号乃至第七號并遊園、建物、校
地、寄宿舎ノ變更ハ知事ニ開申シ第三百三十七條第一項第八号ノ變更ハ更ニ知事ノ許可
ヲ受クヘシ

第三百三十九條 本章ニ依リ設置ノ許可ヲ得タル幼稚園各種學校其ノ他小學校ニ類スル各

程學校及私立小學校ハ許可ノ日ヨリ三月以内ニ開始スヘキモノトス但特別ノ事情アルトキハ期限ヲ定メテ猶豫ヲ請フコトヲ得

第四百十條 幼稚園官立學校其他小學校ニ類スル各種學校及私立小學校ニシテ之ヲ廢止セントスルトキハ市町村立ニアリテハ管理者私立ニアリテハ設立者ヨリ知事ニ開申スヘシ
第四百十一條 前數條ニヨリ知事ノ許可ヲ請フコトハ市ニアリテハ市長町村ニアリテハ郡長ヲ經由スヘシ又私立ニ係ルモノハ市ニアリテハ市長町村ニアリテハ町村長郡長ヲ經由スヘシ

第八章 附則

第四百十二條 本令第一章及第五章中第三節第四節、第六章ノ規定ハ明治三十四年四月一日ヨリ施行ス

第四百十三條 本令第五章第三節中各條ニ關スル規定施行ノ際別ニ俸給辭令書ヲ交付セサルモノハ體テ現ニ受ケテ居ル者ニ對シテ該條ノ規定ニ配當セラレタルモノトス若シ改正等級ニ該當セサル俸給ヲ受ケタルモノハ總テ從來ノ俸給ヲ受ケタルモノトス

第四百十四條 明治二十五年和歌山縣令第十三號明治三十二年和歌山縣令第六十五號明治三十三年和歌山縣令第六十七號、全第六十八號、全第六十九號、全第七十號、全第七十一號、全第七十三號ハ之ヲ廢止ス

第四百十五條 明治二十五年和歌山縣令第十五號、全第二十二號、明治二十七年和歌山縣令第三十六號、明治三十年和歌山縣令第四十三號及明治二十九年和歌山縣訓令第三百

四十九號、明治三十年和歌山縣訓令第五十三號ハ明治三十四年四月一日ヨリ之ヲ廢止ス

○告示

○和歌山縣告示第二百一拾六號

本年通常縣會本日閉會ス

明治三十三年拾二月拾三日

和歌山縣知事 椿 素 一 郎

○和歌山縣告示第二百一拾七號

左記各府縣ニ於テハベスト病豫防ノ爲大阪府及縣下有田郡湯淺町ヲ發シ又ハ同地ヲ經若ハ他ノ諸港ヲ經テ來ル船舶ニ對シ左ノ各港ニ於テ船舶檢校ヲ施行スル旨通知アリタリ

明治三十三年拾二月拾四日

和歌山縣知事 椿 素 一 郎

大 阪 府

傳法川口 木津川口 尻無川口 安治川口 堺港 岸和田港 谷川港

山 口 縣

玖珂郡新湊港 佐波郡三田尾港 赤間關市赤間關港 阿武郡新川口港

福 岡 縣

筑前國博多港 若松港 筑後國若津港 豊前國門司港 宇ノ島港

愛 知 縣

熱田港 半田港

高知縣

安藤郡甲浦港 吾川郡浦戶港 幡多郡下田港 全郡大島港
熊本縣

宇土郡三角港

○和歌山縣告示第二百二十八號

本年三月當縣告示第七拾八號雜業講習會設置ノ位置區域表中左ノ通變更ス

明治三十三年十二月十四日

和歌山縣知事 椿 莚 一 郎

一東牟婁郡那智村雜業講習會ハ

自三十四年一月十六日至二月四日廿日間

一全郡新宮町雜業講習會ハ

自三十四年一月六日至一月廿五日廿日間

一全郡木宮村雜業講習會ハ

自三十四年一月廿八日至二月十六日廿日間

○和歌山縣告示第二百二十九號

ベスト病豫防ノ爲檢疫委員設置規則第六條ニ依リ日高郡ニ檢疫委員事務所ヲ置キ其郡役所
内ニ之ヲ開設ス

明治三十三年十二月十五日

和歌山縣知事 椿 莚 一 郎

○和歌山縣告示第二百三十號

明治三十三年^{十二月}和歌山縣告示第二百十五號船舶檢疫施行ノ告示中有田那邊灣河ノ次ニ左記ノ六字ヲ追加シ本日ヨリ施行ス

明治三十三年十二月十五日

和歌山縣知事 椿 養一 郎

記

日高郡御坊町

○和歌山縣告示第二百三十一號

左記各縣ニ於テハベスト病豫防ノ爲縣下諸港ヲ設シ又ハ同地ヲ經若ハ同地方ヲ設シ他ノ諸港ヲ經テ來ル船舶ニ對シ左ノ各所ニ於テ檢疫ヲ施行スル旨通知アリタリ
明治三十三年十二月十五日 和歌山縣知事 椿 養一 郎

兵庫縣

兵庫港

神奈川縣

橫濱港 日本牧沖燈明臺附近ノ檢疫番船 橫濱港

德島縣

名東郡津田港 勝浦郡小松島港 那賀郡中島港 橋港

海部郡由岐港 淺川港 肉喰港 板野郡別宮川口 岡崎港 堂浦港

三重縣

音無川口 木本港 尾鷲港 鳥羽港 賢崎港 四日市港

岡山縣

邑久郡牛窓港 上道郡三幡港

○和歌山縣告示第二百三十二號

明治二十三年法律第七十七號第一條ニ依リ縣參事會ニ於テ議決シ内務大臣ノ許可ヲ經テ東
牟婁郡高池村ヲ高池町トス

明治三十三年十二月十七日

和歌山縣知事 椿 義一 郎

○和歌山縣告示第二百三十三號

東京府及京都府ニ於テ流行性瘧口瘡發生ニ付東京府及京都府京都市愛宕郡ヲ殺シ若ノハ通
過シタル牛、羊、山羊、豚ノ輸入ヲ拾二月十二日ヨリ停止セシ旨兵庫縣ヨリ通知アリタリ

明治三十三年十二月十七日

和歌山縣知事 椿 義一 郎

○和歌山縣告示第二百三十四號

兵庫縣養父郡高柳村ニ於テ客月廿八日午一頭氣腫疽ニ罹リ全廿九日斃死セシ旨全縣ヨリ通
知アリタリ

明治三十三年十二月十七日

和歌山縣知事 椿 義一 郎

○和歌山縣告示第二百三十五號

明治三十三年度和歌山縣歳出更正豫算并郡廳舍建築費繼續年期及支出方法更正通常縣會ニ
於テ左ノ通議決シタリ

明治三十三年拾二月拾八日

和歌山縣知事 椿 義一 郎

明治三十三年度和歌山縣歲出更正豫算

(△印ハ朱書)

經常部

△既定豫算

金九萬九千八百壹圓九拾五錢四厘

第三款 土木費

金拾萬五百拾九圓貳拾四錢四厘

△既定豫算

金參萬五千四百八圓四拾貳錢壹厘

第一項 道路橋梁費

金參萬六千八百貳拾五圓七拾壹錢壹厘

△第二項 治水堤防費

金四萬八百八拾五圓貳拾四錢九厘

△第三項 港灣費

金貳萬九百六拾貳圓九拾貳錢八厘

△第四項 測量費

金五百貳拾參圓拾貳錢

△第五項 雜費

金千參百貳拾貳圓貳拾參錢六厘

△既定豫算

金四拾六萬六千參百六圓九厘

經常部合計金四拾六萬七千七百貳拾參圓貳拾九錢九厘

臨時部

△既定豫算

金貳萬九千八百四圓

第三款 市町村土木補助費

金貳萬七千八百七拾四圓

△既定豫算

金貳萬九千八百四圓

第一項 道路橋梁河川費補助

金貳萬七千八百七拾四圓

△既定豫算

金拾參萬八千五百參拾五圓六拾五錢八厘

臨時總合計金拾參萬六千六百五圓六拾五錢八厘

△既定豫算 金六拾萬四千八百四拾壹圓六拾六錢七厘

歲出總計金六拾萬四千參百貳拾八圓九拾五錢七厘

自明治三十三年度 和歌山縣郡廳舍建築費繼續年期及支出方法更正
至明治三拾四年度

△既定豫算

一金八千參百拾八圓貳拾五錢

金六千圓

郡廳舍建築費ノ内建築費

内 譯

△金參千圓

明治三十三年度支出額

△既定豫算金參千圓

明治三拾四年度支出額

金五千參百拾八圓貳拾五錢

○和歌山縣告示第二百三拾六号

神奈川縣ニ於テ流行性鷓口瘡發生ニ付全縣久良岐郡、三浦郡ヲ發シ若クハ通過シタル牛、羊、山羊、豚及其生皮、骨、角蹄ノ輸入ヲ拾二月拾三日ヨリ停止セシ旨兵庫縣ヨリ通知アリ

明治三十三年拾二月拾九日

和歌山縣知事 椿 蒸 一 郎

○和歌山縣告示第二百三拾七号

流行性鷓口瘡豫防ノ爲メ左記ノ通り府令發布ノ旨大坂府ヨリ通知アリ

明治三十三年拾二月拾九日

和歌山縣知事 椿 蒸 一 郎

大阪府令第八拾二號

東京府及京都府ニ於テ流行性驚口瘡發生ニ付豫防ノ爲メ東京府及京都府ヲ發シ若クハ通
過シタル牛、羊、山羊、豚及其ノ生皮骨ノ輸入ヲ停止ス違背スル者ハ二圓以上拾圓以下
ノ罰金ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十三年拾二月拾三日

大阪府知事 菊地 侃 二

○和歌山縣告示第二百三拾八號

左記各所ニ於テハペスト病豫防ノ爲本縣下ヲ發シ又ハ縣下ヲ經若ハ他ノ諸港ヲ經テ來ル船
船ニ對シ左ノ各港ニ於テ檢疫ヲ施行スル旨通知アリタリ

明治三十三年拾二月二十日

和歌山縣知事 椿 葵 一 郎

東 京 府

品川沖

佐 賀 縣

東松浦郡 唐津港

高 知 縣

安藝郡 甲浦港 吾川郡 浦戶港 幡多郡 下田港 大島港

○和歌山縣告示第二百三拾九號

沖繩縣ニ於テハ縣下有田郡湯淺地方ヲ發シ又ハ同地方ヲ經テ來ル船舶ニ對シ本月八日ヨリ

那霸港ニ於テ檢疫ヲ施行スル旨通知アリタリ

宮崎縣ニ於テハ縣下有田郡湯淺町ヲ發シ又ハ同地ヲ經テ來ル船舶ニ對シ同縣下東臼杵郡土

谷呂、細島及南那珂郡油津ノ三港ニ於テ檢疫ヲ施行スル旨通知アリタリ

岡山縣ニ於テハ本縣告示第二百一拾一號ヲ以テ告示シタル船舶檢疫箇處中へ本月拾五日

ヨリ兒島郡日比港、同郡下津井港ヲ追加スル旨通知アリタリ

明治三十三年拾二月廿日 和歌山縣知事 椿 義一 郎

○和歌山縣告示第二百四拾號

左記ノ通り縣令發布ノ旨奈良縣ヨリ通知アリタリ

明治三十三年拾二月廿日 和歌山縣知事 椿 義一 郎

奈良縣令第六拾七號

東京府神奈川縣京都府下ニ於テ流行性感冒瘡發生ニ付明治二十九年法律第六拾號獸疫豫
防法第拾二條ニ依リ右府縣ヲ發シ若クハ經過シタル牛、羊、豚及山羊并ニ其骨皮乳肉ノ
輸入ヲ停止ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十三年十二月拾五日 奈良縣知事 寺 原 長 輝

○和歌山縣告示第二百四拾一號

流行性感冒瘡豫防ノ爲メ左記ノ縣令發布ノ旨栃木縣ヨリ通知アリタリ

明治三十三年拾二月廿日 和歌山縣知事 椿 義一 郎

栃木縣令第九拾七號

流行性驚口瘡豫防ニ關スル事項左ノ通相定ム但本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

明治三十三年拾二月拾六日

栃木縣知事 溝部 惟一

第一左記ノ地方ヲ發シ若クハ通過シタル牛、羊、豚及其生乳生皮生肉生骨ノ輸入ヲ停止ス

東京府東京市北豐島郡 南葛飾郡 豐多摩郡 荏原郡 南足立郡

第二前項以外ノ地方ヨリ牛、羊、豚及其生乳生皮生肉生骨ヲ輸入スルトキハ原發地ノ市

町村役場又ハ警察官署ノ証明書ヲ添ヘ二拾四時以内ニ所轄警察官署ニ届出ヘシ

○訓令

○和歌山縣訓令甲第百拾一號

郡 役 所
市 役 所
町 村 役 場

在營兵卒ニ對シ其ノ父兄等ヨリ没ニ金品ヲ贈與スヘカシサル儀ニ就テハ明治三十三年四月
管下一般ヘ當論ノ次第モ有之候處昨今二三ノ地方ヨリ現役海軍下士卒ヨリ在郷ノ親戚等ニ
種々アル手段ヲ以テ數次金員ノ送給貸與ヲ請求スル者アリ之レカ爲某地方ノ如キハ海軍兵
ニ出身セシムルヲ豫想スルノ感情ヲ生セシメ將來海軍兵獎勵上尠ナカラサル不都合ヲ來タ
シタル旨其ノ筋ニ遵行セシ趨ノ處元來海軍兵ハ陸軍兵ト異ナリ諸給與ハ悉ク充分ナルヲ以

テ本人等ニ於テ正當ノ行動ヲナサハ決シテ如斯金員ノ請求ヲ在郷親戚等ニナスノ必要ナシ
畢竟スルニ本人等不正ノ浪費ヲナスノ結果ニ過キサルモノナレハ在郷親戚等ニ於テモ能ク
此邊ノ消息ヲ推斷シ爾後將校以上ノ証明アルモノニ非サレハ如何ナル事情ヲ述ヘ來ルモ一
切拒絕ノ上取リ合ハサル様セテ度旨吳鎮守府ヨリ申來リタリ今現役海軍下士卒等ノ在郷
親戚等ニ金員ヲ請求スルノ重ナル口實ノ一二三例ヲ舉クレハ
一 疾病加養等ニ要スルヲ以テ請求スル事
二 官給物品毀損セシモノニ對シ賠償ヲ要スルヲ以テ請求スル事
三 懷中時計其ノ他纏身ノ裝飾品ヲ購買スルニ要スルヲ以テ請求スル事
四 交際費トシテ請求スル事

第一項ハ海軍各艦團隊等ニ於テハ公私ノ疾病ヲ治療スルニハ悉ク官費ヲ以テスル如ク設備
セラレアリ故ニ毫モ兵員ノ私費自辨ヲ要スル所ナシ

第二項ハ官給物品ヲ毀損スル過誤ニ基因スルモノハ調査ノ上正當ノ理由アルモノハ補欠シ
與ヘテ理由ナキモノ即チ本人ノ故意ニ出テタルモノハ之ニ對スル制裁アリ損リニ私費ヲ

以テ賠償セシムルカ如キハ斷シテ許サレズ若シ本人ノ不幸ヨリ私費ノ必要アラハ必ス之レ
ニ對スル將校以上ノ証明書ヲ添付シアルモノナレハ事情自ラ判然アラン

第三項ハ軍隊勤務上是非必要ノモノニアラス故ニ不能力ヲ以テ購買スルカ如キハ軍紀ニ於
テ嚴禁スル所ナリ然レトモ本人ノ出精貯蓄ノ力ニ頼リ得ルモノハ驕奢虛飾ノ弊ナクシテ所

有セハ權利ナリト認ムルモノハ默許セサルコトナレトセス以上ノ如キ事情アルヲ以テ在郷

親戚等ニ送金ヲ煩ハシテ爲スカ如キハ各將校ニ於テ嚴密ニ取調フルノ規定アリ故ニ在郷親戚ニ於テモ能ク此邊ノ事情ヲ了解スヘシ

第四項ハ凡ソ軍隊間ノ交際ハ信義ニ頼リテ成立スルモノナレハ出費ヲ要スヘキ筈ナシ殊ニ海軍々隊間ニ於テハ下級者若クハ同僚ヲ強テ出費セシメ五官ノ欲ヲ充サントスルカ如キ弊害ハ斷シテナキ所ナリ此等ノ弊害アルノ口實ヲ以テ往々送金ヲ在郷親戚ニ請求スルノ形跡アリトノ報告數次耳ニスルヲ以テ其ノ際ハ嚴密ニ調査ヲ遂ケ一々本人等ヲ探索シテ處罰シツ、アリ又一私人間ノ交際ハ敢テ軍紀ノ關涉スヘキコトニ非サルモ之レカ爲メ多額ノ浪費ヲ要スルカ如キハ一々本人等其ノ身分ヲ顧ミス不覺ノ行動ヨリ生スルモノニシテ假令隱密ニ斯ル行爲ヲ遂ケツ、アルモ終ニハ上官ノ知ル所トナリ爲ニ不幸ニ陥ル者アリ故ニ在郷親戚等ニ於テモ將校以上ノ証明ナキモノニハ如何ナル請求アルモ之レニ應ジ送金スヘカラス從來在郷親戚等ノ一時ノ愛情ニ驅ラレ以上列記スルカ如キ事情ヲ偽述シ金員ヲ請求スルモノナルヲ知ラス送金ノ上遂ニ其ノ子弟ヲシテ罪惡ニ陥ラシムルカ如キ行爲ナキニシモアラズ斯ノ如クシテ其ノ子弟ヲ誤ラシメ而シテ後己レノ不始末ヲ顧ミス却テ海軍々紀ノ不嚴肅ヲ云ハシムルニ至ラシメハ時態容易ナラサルモノナリトス

右等惡々鎮守府ヨリ移隸シ次第モアリタルヲ以テ此際特ニ海軍現役下士卒ノ父兄親戚等ニ對シ篤シ其ノ主旨ヲ了解セシメ將來誤想ノ爲其ノ子弟ヲ誤ラサル様訓戒ヲ加フヘシ

明治三十三年拾二月拾七日

和歌山縣知

權

養 一 耶